



恵那市では現在、令和7年～8年度にかけて活動可能なフリーランス型の地域おこし協力隊を企画募集しています。カジュアル面談やおためしプログラム、インターンを通して、確認し合いながら、本エントリーへ応募いただける方を関係者一同お待ちしております。

★はじめまして 岐阜県 恵那市 飯地町

日本の真ん中に位置する岐阜県は、「木の国、山の国」と言われるように、面積のおよそ8割を森林が占める、緑豊かなところです。そんな岐阜県の南東に位置する恵那市は、人口約5万人。映画館こそありませんが、市街地には必要な商業施設が一通りそろっています。

今回募集の活動地域「飯地町」は標高600メートルの高原の町で、人口は約550人。コンビニも、信号すらもない、恵那市の中で一番小さな町です。

不安になるほどくねくねと曲がりくねった山道を登ると、その先に、突然ぽっかりと開けた集落が現れます。透明な空気と、青い空。春には山桜や野の花。初夏にはきらきら光る新緑。秋には木々が色づき、冬には集落にうっすら雪化粧が施されます。時々ウリボウを連れたイノシシの親子が道を横切り、カモシカがのんびりこちらを覗く姿を見かけます。素朴な里山の風景を目にすると、どこか懐かしい、ほっこりした気持ちになります。

ここに暮らす人々は、ほとんどが顔見知り。町の行事やお手入れなどもみんなで協力し合っています。子どもたちは小さい子から大きい子までみんな仲良し。お兄ちゃん、お姉ちゃんが小さい子と遊んでくれます。お米を作ったり、山仕事をしたり、狩猟をしたり。カッコいい里山「おっとう」がたくさんいます。愛情の込めった里山ごはんを作ったり、丁寧に保存食を作ったり。温か「おっかあ」もたくさんいます。ほんのちょっとせんしょ(お世話やき)で、気持ちの優しい人たちが、昔からの暮らしの知恵や人とのつながりを大切にしながら暮らしています。

曲がりくねった山道の先にある、フルサト。

特別なものは何にもないけど、大切なものがたくさんあります。

Strengths

恵那市の制度運用 今回の募集企画の 魅力！

- ① 恵那市は13の地域自治区がり、地域おこし協力隊員を希望する地域ごとに、地域課題や推していきたい事業、地域力アップに活用できる資源を洗い出し、地域協議において地域おこし協力隊と一緒に取り組みたいテーマとミッションを抽出しています。
- ② 地域おこし協力隊の身分と待遇は、会計年度任用職員ではなく、市と雇用関係のない委嘱された隊員個人と契約を結ぶ「フリーランス型」です。自由度が高い分、自己責任部分も多いです。地域ごとに設けられているミッションに取り組む履行型の委任契約を行い、稼ぐ地域と隊員自身の生業づくり、定住定着に向けた基盤づくりに必要な協働、支援に力を入れています。
- ③ 恵那市では令和5年度から協力隊運用の再構築を岐阜県地域おこし協力隊ネットワーク(県内の協力隊OBOG組織)と協働して行っていることで、行政・地域・隊員・第三者の多様で幅広い視野を盛り込むことが可能な協働体制をつくっています。
- ④ まだ、県内でも実施している市町村が少ない、おためし協力隊やインターン制度を実施し、現地での募集ミッションの説明・業務体験並びに地域関係者や協力隊OBOGとの意見交換を通し、暮らしと仕事のイメージをしっかりともち、良いスタートが切れるように、確認し合える機会を多く設けています。

＋ 詳細 ＋ 今回の募集 テーマ・ミッション について

今回は、募集の目標を「飯地町まるごと劇場化計画」と名付けました。ここで言う劇場は、「飯地町全体」のことを指します。劇場の主役は飯地町に暮らす人々です。

町にある地芝居小屋「五毛座」を拠点にして、町内に点在するヒト・モノ・コトと連携しながら、五毛座の新しい活用を見出し、飯地町ならではの交流・関係・観光人口の創出と収益化、その仕組みまでを町民と一緒に育て上げてくれるプロデューサー役を募集したいというものです。というのも、飯地町に点在するヒトもモノもコトも、その一人ひとりや一つひとつをよく見ると、洗練されていないながらも、魅力的なものがたくさんあります。けれども単体ではちょっと力が弱かったり、自分たちの魅力を形にして伝える力が弱かったりするのです。それらを五毛座を中心に繋いで町内外に発信できるよう、魅力をブラッシュアップしてほしいのです。

飯地町では、そのための「飯地まるごと劇場化計画FROM五毛座」検討委員会も発足させ、まだ見ぬ協力隊員さんとの協働や連携、受け入れ体制について協議を重ねてきました。

このような経緯と状態を知っていただいた中で、あなたの思いやスキル、経験を存分に発揮できる領域と環境をお聞きしながら、すり合わせ、掛け合わせながら「飯地町まるごと劇場化計画」を始動していきたいのです。

3年目の活動が終わる頃には、あなたがプロデュースのプロとなり、町内の魅力を収益を生む“プログラム”として育て上げ、飯地劇場のあちこちで“上演”され、あなたのナリワイとなって、私たちと共に飯地町を盛り上げていく存在になってくれることを願っています。一緒に精一杯やります。



【江戸時代から伝わる地芝居とともに】

飯地町には古くから6つの集落があり、それぞれに神社があります。その神社の拝殿を兼ねた集会所を舞台にして、江戸時代後半から盛んに地芝居(地歌舞伎)が行われてきました。昭和26年に、町内に両花道の付いた歌舞伎のできる公民館が建設されて「五毛座(ごもうざ)」と名付けられ、以降は地歌舞伎などの演芸がここで行われるようになりました。翌27年には現在の「飯地五毛座歌舞伎保存会」につながる「歌舞伎同好会」が結成されました、松本団升師匠、男女団女師匠の指導を受け、毎年4月の太田神社祭礼の余興として地歌舞伎公演を行ってきました。

現在、保存会員は11名と少数ではありますが、自主公演をはじめ、各種大会に出演しています。会員は、普段は、公務員やサラリーマンで、中には大工さんと神主さんのダブルワークの人もあります。市役所に勤務しながら、歌舞伎公演になると絶世の美女に化ける男性職員もいます。

現在では費用の捻出が困難になり、隔年に1度、自主公演である五毛座地芝居公演を開催しています。この時は、会員だけでなく地元の子どもたちや住民も出演し、地域ぐるみの公演となっています。また、地域の敬老会に余興として子ども歌舞伎を上演していることも大きな特徴です。

活動の拠点となっている「五毛座」は、平成15年の大改修を経て、平成21年に国の登録有形文化財に登録されました。また令和6年には2度目の大改修があり、こけら落としに中村勘九郎一座の公演が行われました。

令和7年5月には、ポーランドジャズの公演も開催され
地芝居小屋の枠を越え、音楽ホールや、映画館など多用途の利用が
検討されています。 <https://iiji-ena.com/gomouza>

催しものに欠かせない地域グルメ(特産品)もさまざま！

- ・ するめのこうじ漬け
- ・ こんにゃく
- ・ いもごね
- ・ あげ
- ・ 朴葉寿司





【子育て交流サークル「おなかま」】



【町民集合写真】



【飯地高原自然テント村管理人加納夫妻】

【町内に点在する「小さな魅力スポット」やおもしろ人材。移住やUターンの若者が町の至るところで活躍中！】

飯地町は、昔から人口も恵那市で一番少なく、地域みんなが顔見知りということもあり、「自分達のことは自分達でがんばろまい！」という気風がとても強い地域です。ここ10年ぐらいで移住される方やUターンされる若いファミリーも増え、少しずつ活気が取り戻されています。

ランドマーク的存在である五毛座以外にも、旧村役場のレトロモダンな建物を活かした「ふるさと民俗資料館」や、5年ほど前に大規模改修し、移住者夫妻が管理人を務める「飯地高原自然テント村」などの施設もあります。町の大きな特徴の一つとして、町の人の懐が深く、昔から住んでいる町民のみなさんと、移住やUターンされた人達が一緒になって、さまざまな活動が行われています。

【五毛座を拠点に町内施設や人(技)を活かし収益化を図れる協力人】

ここに住みながら、協力隊として飯地町の宝を探し、磨き、実践し、関係者と共に地域を盛り上げていくことに「やりがい」と「展望」を見いだせる方に出会い、協働していきたいと、私たちは考えています。

そんな皆さんの活動をサポートするパートナー団体は、前述の「飯地まるごと劇場化計画FROM五毛座」検討委員会です。メンバーは、地域を束ねる協議会の会長、観光協会の会長、歌舞伎保存会の会長、地域おこし協力隊OBと、恵那市版地域おこし協力隊「ふるさと活性化協力隊」のOGなど11名がいます。

また、町内のキャンプ場「飯地高原自然テント村」や、子育て世代のパパママと子供達移住者が中心になった活動交流グループ「おなかま」、飯地五毛座歌舞伎保存会など、地域を盛り上げるさまざまな団体が協力してくれます。困った時には、地域の「小さな拠点、飯地商店」にきてください。お店には、協力隊OBOGや子育てママスタッフがおり、移住者の相談に乗ったり、空き家バンクのサポートや移住サポートをしていますので、一緒に話し合いながら協力して解決していくこともできます。

既存の活動・事業の再構築から、新たな活用企画・実践、多様な関係者と連携した町ごと劇場化計画の推進、地元住民と協働した歴史文化の掘り起こしから新たな仕掛けづくりまで、ポテンシャルはたっぷりあると認識しています。

活動テーマ

まちの「まんなか」地芝居小屋を拠点に人・もの・ことを活かす劇場プロデューサーの募集！

地域が求める人物

地芝居小屋「五毛座」を拠点に、町内施設や人（技）を活かし
収益化を図れる協力人

一緒にやりたい活動プロセスと出したい結果、成果

- ①まずは、飯地町の名所や施設、関係者のもつ知恵と技に関する情報をインプット
- ②今までの調査や現状ヒアリングから現状を正確に把握
- ③変えたいものとそうでないものを踏まえた協議と提案
- ④関係したい人（呼び込みたい人）の設定と共有
- ⑤地域内外の満足度を高めるための調整や企画のブラッシュアップ
- ⑥取り組む優先順位を地域関係者と協議して実施するサイクルを回しながら任期後における隊員自身と関係者の望む姿へ到達（五毛座の総支配人？企画立案からプロジェクトの運営・管理まで！）



【パートナー団体の紹介】



メインパートナーである「飯地まるごと劇場化計画FROM五毛座」検討委員会メンバー



【パートナー団体の紹介】

恵那市行政及び関連団体

① 地域おこし協力隊制度運用及び事業管理

② 飯地町での業務（活動）管理や関係者との調整

③ 最年長のおじさま（指導係）と最年少＝地域の未来



① 恵那市地域振興課移住定住推進室



② 恵那市飯地振興事務所



③



【地域おこし拠点と地域内のもったいない資源の紹介】



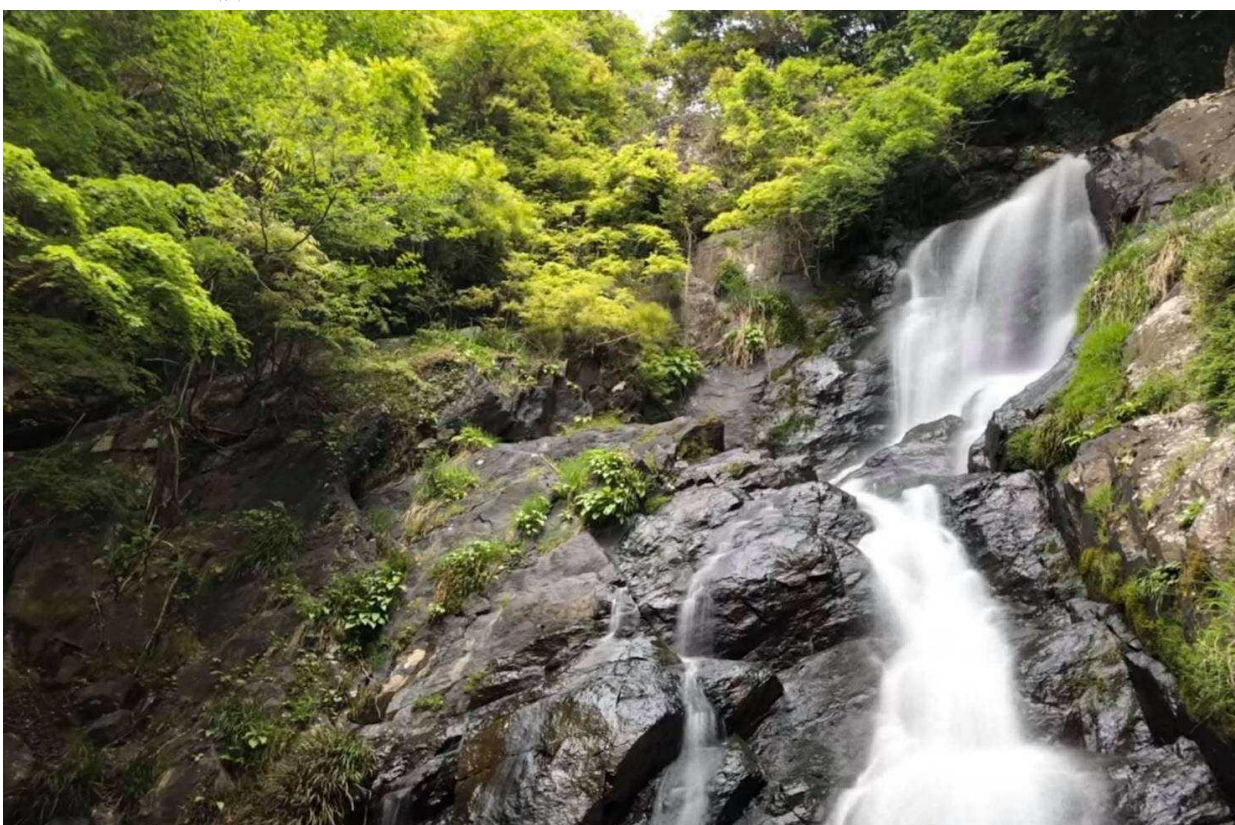
地芝居小屋「五毛座」



ふるさと民俗資料館



地芝居公演



平瀬滝



飯地町沖田地区の風景



飯地町を空から撮影

＋要確認＋ 業務環境 応募条件

募集人数：1名

応募条件：この募集は「地域おこし協力隊」制度を活用するため
下記における条件および地域要件を全て満たす人が対象になります。

雇用関係：なし
恵那市長が地域おこし協力隊員として委嘱します。
恵那市地域おこし協力隊設置要綱、仕様書に基づき業務委託契約を行います。

契約期間

委嘱日から年度末まで
年度ごとの委嘱、契約更新で、最長**3**年まで（委嘱日はご相談に応じます）
更新の有無は市による事業評価により決定いたします。
市が協力隊としてふさわしくないと判断した場合は、任用期間中であっても
解嘱できるものとします。

業務時間

1ヶ月当たり**135**時間、1カ月あたり**20**日を目安に活動をする仕様で人件費及び
活動費を積算してあります。業務内容等により活動時間の調整可

活動場所

恵那市内および飯地地域（ただし、研修等により市外へ出張する場合あり）
事務スペースやデスクは市や地域関係者が提供する場所も一定のルールに基づ
き使用することができます。

委託費用

人件費：月額上限 **275,000**円 ※消 費 税 込

活動費：月額 **125,000**円 ※消 費 税 込

月ごとの履行による請求、市の確認により適切と認めたものを委託契約の範囲内で支払
います。詳細は仕様書を確認ください

活動報告

毎月1回活動報告書を取りまとめ、市へ進捗状況等を報告していただきます。また、
地域振興事務所や活動パートナーの担当者と連携を図り、2週に1回程度、隊員の活動
等に関する意見交換等を行います。

兼業 副業

地域おこし協力隊の活動＝委託業務に支障のない範囲で可能です。内容についてはあ
らかじめ発注者である市と協議をして確認を得てください。副業 兼業に従事する時
間は、地域協力活動に従事する時間に参入することはできません。また、恵那市地域
おこし協力隊としての信用を傷つけたり、市全体の不名誉とならぬよう細心注意をは
らってください。

住居

賃貸住宅等を隊員自身で契約していただきます。市が一部家賃を活動費として支出し
ます。

※駐車場代及び管理費 共益費等、住宅に付帯する費用も含めることができますが、
敷金 礼金 光熱費等については隊員の自己負担となります。上限あり

その他の支援制度

隊員の希望、市での活動評価をもとに、条件を満たした場合は下記の支援メニューを
利用できます。

①地域おこし協力隊起業支援金、任期終了後の定住するための空き家改修費用

②恵那市移住定住推進事業、商工振興補助金

③岐阜県地域おこし協力隊ネットワークによる日々のサポート、活動・起業相談

✦ Welcome ✦

お問い合わせ及び 申し込み方法

恵那市まちづくり企画部地域振興課
移住定住推進室担当：荒川

〒509-7292

岐阜県恵那市長島町正家一丁目1番地I本庁舎3階

TEL : 0573-26-2111

mail : enagurashi@city.ena.lg.jp

恵那市【公式】WEBサイト



個別相談、おためし・インターンの
希望、お待ちしております！

<https://kurashi.enalifebizsupport.jp/volunteer/>